

科目 No.53

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護論：地域・在宅看護の概論		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年前期
講師名	粟生美帆	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
<p>【科目のねらい】</p> <p>地域とは、暮らしとはいったい何でしょうか？みなさんが当たり前で生活を送っている地域や暮らしについて考えてみたいと思います。そして、在宅看護を必要とする地域で生活する人やその家族の特徴を理解し、住み慣れた場所で暮らしていくためにはどのようなことが必要なかをこの科目では学んでいきます。高齢化が進む昨今、地域看護の必要性が問われています。講義や演習を通して、地域の課題点や今後の展望、看護職の役割について皆さんで考えていきましょう。</p>					
<p>【目的】暮らしの拠点として地域を知り、地域で生活しながら療養する人々とその家族を支援するための基礎的な知識を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域とは暮らしとはについて説明することができる。 2. 地域・在宅看護の変遷とその社会背景について述べるができる。 3. 地域・在宅看護の役割について述べるができる。 4. 地域・在宅看護の対象者について述べるができる。 5. 地域・在宅看護における倫理について考察することができる。 6. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携・協働の必要性について述べるができる。 7. 地域で生活する人々の健康の保持・増進、疾病の予防、回復、障害のための看護活動について具体的に述べるができる。 8. 看護の対象を地域における生活者の視点で説明することができる。 					
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容		方法	備考	
1	地域とは、暮らしとは、日本の暮らし様子、地域に目を向けた看護とは 演習；事前学習で調べたことをもとにグループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。		講義・演習 ポストテスト		
2	生活環境と健康 演習；事前学習で調べたことをもとにグループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。		講義・演習 ポストテスト		
3	地域・在宅看護の背景 演習；事前学習で調べたことをもとに地域・在宅看護の背景についてまとめてみよう。		講義・演習 ポストテスト		
4	地域・在宅看護の基盤／地域療養を支える在宅看護の役割・機能 演習；あらゆる対象への地域活動：健康増進・一次予防・ハイリスクアプローチについて考えてみよう。		講義・演習 ポストテスト		
5	地域・在宅看護の基本理念・理論 ソーシャル・キャピタル、ソーシャル・インクルージョン、ローカル・オブ・コントロール、ヘルスプロモーション、ストレングスマodel、アドボカシー、エンパワメント、レジリエンス、自己効力感、プライマリヘル		講義・演習 ポストテスト		

	スクア、家族理論、役割理論、パートナーシップ 演習；事前学習で調べたことをもとに、地域・在宅看護の基本理念・理論についてグループメンバーで整理してみよう。それを踏まえて自助・公助・共助・互助の意義について考えてみよう。		
6	地域・在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 演習；地域・在宅看護の対象者について考えてみよう。	講義・演習 ポストテスト	
7	地域・在宅看護の倫理 演習；事例をもとに、グループメンバーで地域・在宅看護の倫理について考えよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト	
8	地域共生社会への実現にむけて 演習；事前学習で調べたことをもとにグループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト	
9	地域包括ケアシステム 演習；事例をもとに、地域包括ケアシステムの理解を深めよう。	講義・演習 ポストテスト	
10	多職種連携協働 演習；事例をもとに、グループメンバーで多職種連携協働について考えよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	講義・演習 ポストテスト	
11	地域診断：市民の健康とその支援：福岡市の支援内容について 事例演習 まとめの発表と共有	演習	
12			
13			
14	地域活動（健康づくりセミナーの当日運営への参加） 主催：福岡県保健・医療・福祉推進協議会	演習 レポート	※セミナー参加が困難な場合は、オンデマンド視聴と演習となる
15	セミナーの聴講、セミナー後に市民の方にインタビュー		
	筆記試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>1 回目までに地域とは、暮らしとは、日本の暮らし様子とは、地域に目を向けた看護とはについて調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>2 回目までに生活環境と健康について調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>3 回目までに地域・在宅看護の背景について調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>4 回目までに地域・在宅看護の基盤／地域療養を支える在宅看護の役割・機能 あらゆる対象への地域活動：健康増進・一次予防・ハイリスクアプローチについて調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>6 回目までに地域・在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件について調べ学習を行い事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>8 回目までに地域共生社会への実現にむけての調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>11 回目までに福岡市の特徴や、福岡市で行われている地域活動について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。（福岡市ホームページ、市政だより、各区ホームページなど参照可）</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>わからない語句について調べておくようにしましょう。</p>			
<p>【使用するテキスト】</p> <p>臺有桂他編 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア 2023</p>			
<p>【参考文献】</p> <p>安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2023-2024</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（30点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（20点）、筆記試験（50点）</p> <p>14～15 回目の地域活動に参加し、学びをレポートし指定日までに提出してください。</p>			
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p> <p>11 回目～13 回目の演習では、グループ学習を行い、メンバーシップを図りながら主体的に取り組んでいきましょう。</p> <p>14 回目～15 回目は、4月～7月に1回参加予定になっています。参加状況も出欠に関係します。詳細は決定次第お伝えしますが主体的に参加</p>			

しましよ。

科目 No.54

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護論：地域・在宅看護の方法 I		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期
講師名	安藤真由美	所属および実務経験	株式会社 Nano テックス 代表取締役／ 保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員		
	粟生美帆		専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
【科目のねらい】 社会資源とは日常生活上の人々が抱えている様々な問題を解決する福祉サービスの総称のことです。地域で暮らす人が、住み慣れた場所で自分らしい生活を人生の最期まで送れるようにするためには、これからは地域全体で支えなくてはなりません。そのためには、社会資源や法制度を学ぶことが必要になります。そして、これらを理解したうえで、多職種と連携・協働していくことが求められます。この科目を通して、地域・在宅療養支援への活用やサービスとのつながりについて、しっかりと学習し理解を深めていきましょう。そして、地域看護活動に参加し、地域住民や地域組織の健康増進や災害の備えに向けた協働に参加し、その意義について考えてみましょう。					
【目的】地域・在宅における多様な場で療養する人々の支援やサービス内容のつながりとなる知識を養う。 【到達目標】 1. 地域・在宅療養における多様な場について列記することができる。 2. 地域・在宅療養における家族の特徴について述べるができる。 3. 個人・家族を取り巻く地域包括ケアシステムにおける多職種連携について説明することができる。 4. 地域・在宅で暮らす人々に必要な制度や社会資源と看護のつながりについて、制度別に説明することができる。 5. 地域住民や地区組織活動の健康増進や災害の備えに向けた協働に参加し、その意義について考察することができる。					
【DPとの関連】 DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。 DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。 DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。 DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。 DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容			方法	備考
1	地域・在宅療養の場における家族のとらえ方 地域・在宅療養者の家族への看護			講義・演習	安藤真由美
2	個人・家族を取り巻く地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護 自助・公助・共助・互助の視点			講義・演習	
3	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント			講義・演習	
4	看護が提供される多様な場（病院（外来・入院）、診療所、居宅（自宅、施設）、療養 通所介護事業所、訪問看護事業所、看護小規模多機能型居宅介護、通所サービス、地域 包括支援センター、介護施設、老人保健施設など）			演習	
5	地域・在宅で生活する療養者；医療保険制度 事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。			演習 ポストテスト	
6	地域・在宅で生活する療養者；後期高齢者医療制度・高齢者施策 事例演習			演習 ポストテスト	

	演習の成果を発表し、学びを共有する。		
7	地域・在宅で生活する療養者；介護保険制度 事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト	安藤真由美
8	地域・在宅で生活する療養者；生活保護制度 事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト	
9	地域・在宅で療養する障害者；障害者に関連する法律 事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 ポストテスト	
10	地域・在宅で療養する難病患者；難病法 事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習	
11	地域・在宅で生活する療養者；子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。	講義・演習	
12	地域・在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源	講義・演習 ポストテスト	
13	地域・在宅における対象の特徴や場の特徴を捉えた看護の概要 (介護予防、虐待防止、精神障害、重症心身障害児、認知症、要介護高齢者、リハビリテーション、エンドオブライフケア)	講義・演習	
14	地域活動参加（認知症カフェ「浜カフェ 100」「百道浜いきいきカフェ」）または（産学連携「ガス会社と看護学校見守り隊」）	演習 レポート	粟生美帆
15			
	試験		
【準備学習内容】			
5 回目までに医療保険制度について調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。			
6 回目までに後期高齢者医療制度・高齢者施策について調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。			
7 回目までに介護保険制度について調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。			
8 回目までに生活保護について調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。			
9 回目までに障害者に関連する法律について調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。			
10 回目までに難病法について調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。			
11 回目までに子どもの在宅療養を支える制度と社会資源について調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。			
テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。			
重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。			
【使用するテキスト】			
臺有桂他編 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア 2023			
【参考文献】			
安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2022-2023			
【評価方法】			
授業終了後のポストテスト（30点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果；1～13 回まで（25点）、筆記試験（45点）			
14 回目～15 回目の地域活動に参加し、学びをレポートし指定日までに提出してください。			
【受講上の注意】			
制度や施策など難しいと感じやすいですが、分からない言葉は調べる、繰り返しの反復学習する、などの自己学習行動により理解につながります。			
自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。			
14 回目～15 回目は、1 回参加予定になっています。参加状況も出欠に関係します。詳細は決定次第お伝えしますが、主体的に参加しましょう。			

科目 No.55

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護論：地域・在宅看護の方法Ⅱ		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期
講師名	田中道	所属および実務経験	訪問看護ステーション白十字／看護師		
	粟生美帆		専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
【科目のねらい】 訪問看護とは、訪問看護師が医師の指導に基づき、対象者の療養上の世話や医療処置などを定期的に訪問し提供する看護サービスです。また、ご家族の精神面のケアや看護指導なども訪問看護師の仕事です。この科目では、訪問看護がどのようなしくみなのか、そして地域での療養生活を継続的に支えるために訪問看護がどのような役割を担うのかを具体的に学んでいきます。地域・在宅における安全管理や危機管理も共に考えていきましょう。また、訪問看護師としての多職種連携の視点として福祉用具専門相談員との連携の実際を学んでいきます。					
【目的】療養の場の移行に伴う看護および地域・在宅療養者とその家族を支える訪問看護の基礎知識を養う。 【到達目標】 1. 療養の場の移行に伴う看護と多職種連携の必要性について説明することができる。 2. 訪問看護の役割と機能および訪問看護の流れについて説明することができる。 3. 訪問看護における家族支援について述べるすることができる。 4. 訪問看護制度の課題について述べるすることができる。 5. 訪問看護における多職種連携協働について説明することができる。 6. 地域・在宅看護における危機管理、日常生活における安全管理について説明することができる。 7. 地域・在宅看護における在宅療養者と健康危機管理について説明することができる。 8. 地域・在宅看護の必要性を考察することができる。					
【DPとの関連】 DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。 DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。 DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。 DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。 DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容		方法	備考	
1	療養の場の移行に伴う看護 退院調整 退院支援 継続看護 サービス担当者会議 病院との連携 地域連携 演習；事前学習で調べたことをもとにグループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。		講義・演習 ポストテスト		
2	訪問看護の特徴（制度と現状、提供方法と種類、様々な場への訪問） 介護老人福祉施設 小規模多機能型居宅介護 サービス付き高齢者向け住宅 グループホーム 有料老人ホーム デイケア デイサービス 演習；訪問看護の特徴について、グループで整理してみよう。		講義・演習 ポストテスト	田中道	
3	在宅ケアを支える訪問看護 （開設基準、従事者、対象者、サービス内容、サービス開始までの流れ） 演習；事前学習で調べたことをもとにグループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。		講義・演習 ポストテスト		

4	在宅ケアを支える訪問看護（利用料、訪問看護サービスの質保証、訪問看護指示書、特別訪問看護指示書、訪問看護記録、報告書、訪問看護サービスの管理・運営） 演習；事前学習で調べたことをもとにグループメンバーで整理してみよう。	講義・演習 ポストテスト	田中道
5	演習の成果を発表し、学びを共有する。		
6	在宅ケアを支える訪問看護（家族支援）	演習	
7	事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。		
8	在宅を支える訪問看護（訪問看護制度の課題） 演習；訪問看護制度の課題についてグループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し学びを共有する。	講義・演習 ポストテスト	
9	訪問看護における多職種連携協働	講義・演習	
10	事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。		
11	在宅看護における危機管理 住宅改修 福祉用具購入 福祉用具貸与 日常生活における安全管理	演習 ポストテスト	栗生美帆
12	事例演習 演習の成果を発表し学びを共有する。		
13	災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 医療機器	演習 ポストテスト	
14	事例演習 演習の成果を発表し、学びを共有する。		
15	病院から地域への移行と看護及び多職種連携協働（福祉用具の選定基準と活用方法の実際） 退院時から在宅療養を支える福祉用具の選定に対する訪問看護師との協働／物品と環境・利用目的の関係／対象に応じた物品の選定に関する多職種連携の実際（福祉用具のショールーム見学もしくは講座を受講する、演習）	演習 レポート	
	試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>1 回目までに療養の場の移行に伴う看護 退院調整 退院支援 継続看護 サービス担当者会議 病院との連携 地域連携について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>2 回目までに訪問看護の特徴（制度と現状、提供方法と種類、様々な場への訪問）について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>3 回目までに訪問看護の開設基準、従事者、対象者、サービス内容、サービス開始までの流れについて調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>4 回目までに訪問看護の利用料、訪問看護サービスの質保証、訪問看護指示書、特別訪問看護指示書、訪問看護記録、報告書、訪問看護サービスの管理・運営について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>6 回目までに訪問看護における家族支援について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>9 回目までに訪問看護における多職種連携協働について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>11 回目までに在宅看護における危機管理、日常生活における安全管理について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>動画視聴：看護教育シリーズ「目で見える訪問看護」を動画視聴しておいてください。</p>			
<p>【使用するテキスト】</p> <p>臺有桂他編 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア 2023</p>			
<p>【参考文献】</p> <p>安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2022－2023</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了後のポストテスト（30点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果：1～14回まで（25点）、筆記試験（45点）</p> <p>15 回目の福祉用具のショールーム見学もしくは講座に参加し、学びをレポートし指定日までに提出してください。</p>			
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p> <p>15 回目は福祉用具のショールーム見学もしくは講座を1回参加予定になっています。参加状況も出欠に関係します。主体的に参加しましょう。</p>			

科目 No.56

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護論：地域・在宅看護の方法Ⅲ		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年後期
講師名	岩佐和枝	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
	石崎弥生		専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
【科目のねらい】					
<p>昨今、療養の場は地域・在宅に移行しています。地域・在宅で療養者を支えていくためには、対象の健康課題や生活上の問題に対する的確な判断能力を養うとともに、療養者の生活に合わせた基本的技術を身につける必要があります。また地域・在宅では家族が主となり介護を行うので、家族に対する相談的・教育的対応技術も必要になります。基礎看護学で学んだ基本技術や生活の援助・医療処置に伴う援助を、地域・在宅という生活の場に適応させるために、応用する力を身につけていきましょう。</p>					
【目的】地域・在宅における臨床判断と日常生活を支えるための基礎看護技術を応用する基礎的能力を養う。					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護技術を実践することができる。 2. 地域在宅における臨床判断プロセスとそのポイントを説明することができる。 3. 地域・在宅療養者の特性に応じた日常生活援助および医療的援助の基本的なアセスメントを実施することができる。 4. 医療管理を必要とする地域・在宅看護の特徴と支援の方法について説明することができる。 5. 地域・在宅における看護技術の工夫と家族への指導技術について説明することができる。 					
【DPとの関連】					
<p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象のQOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p> <p>DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。</p>					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容			方法	備考
1	訪問看護技術（家庭訪問・初回訪問） 訪問マナー コミュニケーション 演習；訪問技術を体験し、どのようなことが必要かを考えてみよう。			演習 ポストテスト	岩佐和枝
2	演習の成果を発表し、学びを共有する。				
3	在宅におけるヘルスアセスメントと臨床判断 生命や暮らしを支える 演習；在宅でのヘルスアセスメントからどのように臨床判断をするのか、グループで整理してみよう。			演習 ポストテスト	
4	演習の成果を発表し、学びを共有する。				
5	在宅における環境アセスメントと臨床判断 演習；在宅での環境アセスメントからどのように臨床判断するのか、グループで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。			演習 ポストテスト	
6	在宅における感染防止対策 演習；グループメンバーで整理してみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。			演習 ポストテスト	
7	在宅における生活リハビリテーション 肢位の保持と移動 転倒予防 事例演習；事例をもとに、在宅におけるリハビリテーションについて考えてみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。			演習 課題レポート	
8	在宅療養の場における食生活と臨床判断 経管栄養 胃瘻			演習	

	事例演習；事例をもとに、在宅での食のアセスメントからどのように臨床判断するのかを考えてみよう。演習の成果を発表し、学びを共有する。	課題レポート	
9	在宅療養の場における排泄と臨床判断 排尿ケア 尿留置カテーテル ストーマ 事例演習；事例をもとに、在宅での排泄のアセスメントからどのように臨床判断するのかを考えてみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 課題レポート	岩佐和枝
10	在宅療養の場における清潔と更衣と臨床判断 事例演習；事例をもとに、在宅での清潔と更衣のアセスメントからどのように臨床判断するのかを考えてみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 課題レポート	
11	在宅における褥瘡管理と臨床判断・在宅における足病変のケアと臨床判断 事例演習；①事例をもとに、在宅での褥瘡管理におけるアセスメントからどのように臨床判断するのかを考えてみよう。②事例をもとに、在宅での足病変のアセスメントからどのように臨床判断するのかを考えてみよう。演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 課題レポート ポストテスト	
12	在宅における医療ケアの原理原則 在宅における輸液療法（在宅中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法）と臨床判断 事例演習；事例をもとに、在宅での輸液管理のアセスメントからどのように臨床判断するのかを考えてみよう。演習の成果を発表し、学びを共有する。	講義・演習 課題レポート ポストテスト	
13	在宅における CAPD 管理と臨床判断 事例演習；事例をもとに、在宅での CAPD 管理におけるアセスメントからどのように臨床判断するのかを考えてみよう。 演習の成果を発表し、学びを共有する。	演習 課題レポート	
14	在宅における技術 在宅での工夫 家族指導技術 事例演習；事例をもとに在宅における技術の実施と家族への指導技術について考えてみよう。	演習	石崎弥生
15	演習の成果を発表し、学びを共有する。	ポストテスト	
	試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>7 回目までに在宅における生活リハビリテーション（肢位の保持と移動 転倒予防含む）について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>8 回目までに在宅療養の場における食生活（経管栄養 胃瘻含む）と臨床判断について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>9 回目までに在宅療養の場における排泄と臨床判断について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>10 回目までに在宅療養の場における清潔と更衣と臨床判断について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>11 回目までに在宅における褥瘡管理と臨床判断および在宅における足病変のケアと臨床判断について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>12 回目までに在宅における医療ケアの原理原則および在宅における輸液療法（在宅中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法）と臨床判断について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>13 回目までに在宅における CAPD 管理と臨床判断について調べ学習し、事前にレポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>動画視聴：看護教育シリーズ「目で見える訪問看護」VO 1. 2, 4, 5 を動画視聴しておいてください。</p> <p>日常生活援助については、教科書「基礎看護技術 I、II」にて復習しておいてください。</p>			
<p>【使用するテキスト】</p> <p>臺有桂他編 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 2023</p>			
<p>【参考文献】</p> <p>押川真喜子監 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ 2020</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了後のポストテスト（30 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（25 点）、筆記試験（45 点）</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<p>【受講上の注意】</p>			

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。

科目 No.57

分野	専門分野	科目	地域・在宅看護論：地域・在宅看護の方法Ⅳ		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年後期
講師名	粟生美帆	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
	石崎弥生		専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
【科目のねらい】 地域・在宅における特徴的な事例から、在宅療養者の価値観、人生観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用などについて学習します。在宅療養者の特徴をふまえて在宅療養者への援助や支援を学びましょう。					
【目的】：地域・在宅看護における紙上事例を通し、在宅療養者とその家族に対する看護につなげる思考過程と必要な援助方法についての知識を養う。 【到達目標】 1. 地域・在宅看護の特徴を列記することができる。 2. 事例から、療養者と家族の希望に着目し、背景や経過から生活上の課題を考察することができる。 3. 事例から、対象の特性に応じたアセスメントと、今後を予測した看護介入について説明することができる。 4. 事例から、療養者と家族の状況に対して活用できる社会資源を述べるができる。 5. 事例から、地域・在宅での臨床判断について具体的に述べるができる。					
【DP との関連】 DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。 DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。 DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。 DP4 対象の Q O L（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。 DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。 DP6 心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容			方法	備考
1	対象および家族の特徴を踏まえた地域・在宅看護の特徴 演習；事前学習で調べたことをもとに、地域・在宅看護の特徴についてまとめてみよう。			講義・演習	粟生美帆
2	事例；COPD HOT、排痰ケア、呼吸ケア、口腔ケア			演習 ポストテスト	
3	事例演習；事前学習をもとにグループ学習				
4	学びの発表と共有				
5	事例；ALS NPPV、TPPV、気管カニューレ管理			演習 ポストテスト	石崎弥生
6	事例演習；事前学習をもとにグループ学習				
7	学びの発表と共有				
8	事例；小児療養者（特別支援学校に通学、医療的ケアを必要とする小児）			演習 ポストテスト	
9	事例演習；事前学習をもとにグループ学習				
10	学びの発表と共有				
11	事例；終末期 看取り、疼痛コントロール、ACP			演習 ポストテスト	粟生美帆
12	事例演習；事前学習をもとにグループ学習				
13	学びの発表と共有				
14	事例演習：臨床判断			演習	

15	事例演習；事例をもとに、在宅における臨床判断について考えてみよう。 学びの発表と共有		
	試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>2 回目までに COPD の学習をし、レポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>5 回目までに ALS の学習をし、レポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>8 回目までに小児の療養者について学習をし、レポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p> <p>11 回目までに終末期療養者について学習をし、レポートにまとめておきましょう。授業後提出となります。</p>			
<p>【使用するテキスト】</p> <p>臺有桂他編 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア 2023</p> <p>臺有桂他編 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 2023</p>			
<p>【参考文献】</p> <p>安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2022－2023</p> <p>押川真喜子監 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディア 2020</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（20 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（80 点）</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p> <p>演習は周囲に迷惑をかけないようにしましょう。</p>			